

令和8年度第1回青谷地域振興未来会議 議事概要

日時：令和8年5月19日（火）午後1時30分～3時00分

会場：青谷町総合支所 第2，3会議室

【出席委員】

秋田典昭、青木綾、井上智朗、浦島考雄、大谷茜、斎藤智範、田内伸一、
棚田美紀雄、長谷川優、浜野幸子、山田由理子

【欠席委員】

なし

【事務局】

<青谷町総合支所>

佐々木支所長、田中副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷町分室長）、
高野産業建設課長、金崎市民福祉課長、能勢地域振興課課長補佐

<こども家庭センター>

小野澤こども家庭局長兼こども未来課長、森田所長、太田子育て支援係長

【オブザーバー】

<地域振興課>

坂本総括主査（総合支所エリアマネージャー）

【日程】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ 田内会長
- 3 支所長あいさつ 佐々木支所長
- 4 議題

【報告事項】

- (1) 【こども家庭センター】乳幼児健康診査会場の統合について (資料1)
- (2) 令和8年度 総合支所等の体制について (資料2)
- (3) 令和8年度 青谷地域に係る当初予算について (資料3)

【協議事項】

(1) 令和8年度 地域振興未来会議開催スケジュールについて (資料4)

(2) 青谷地域未来プランおよび実施計画の進捗状況について (資料5)

(3) 地域おこし協力隊について (資料6)

5 その他

・委員提案について

6 閉会

◎議事概要

<報告事項>

(1) 【こども家庭センター】乳幼児健康診査会場の統合について

説明者：小野澤こども家庭局長兼こども未来課長、森田所長

出生数減少に伴い受診者が減少する中で、健診の質の維持向上、医師・看護師等の人員確保を図るため実施会場の一元化を検討。西・南ブロックの駅南庁舎への統合に向けて各総合支所と協議を進めている。実施回数増による受診機会の確保、専門職による支援体制の充実が一元化するメリット。

今後、各支所の地域振興未来会議で説明・意見聴取を行う。各支所に保健師1名配置することで地域の子育て支援を継続。会場一元化の実施は2027年4月を予定。

【委員】メリットだけでなく、どのようなデメリットを想定されているか。

【事務局】会場が遠くなりご不便をおかけすることは承知しているが、対象となる月齢健診を受診する機会が確保できている。健診や会場に行くのが困難な場合は、保健師が訪問させていただく。

【委員】健診会場では地域の保健師と違った方が健診に立ち会うことになるが、連携に問題はないか。

【事務局】保健師の連携については、西ブロックの子どもたちが対象となる初日の健診日に、西ブロック担当の保健師に会場に来てもらい状況をみていただく。心配なご家庭については随時来ていただくように対応したいと考えている。

【委員】青谷地域で言えば、1回あたり11人くらいとなるが、市内はどれくらいに分散されて、1回の時間がどのくらいになるか検討されているか。

【事務局】現状は、約20名から30名で、2時間程度で対応している。

【委員】すごく時間がかかるイメージがある。医師の到着に合わせて順番どおりに受診しているが、時間の枠内で順番を柔軟に入れ替え滞在時間が短くなる工夫を入れてもらえると助かる。

【事務局】駅南庁舎では、受付時間を10人単位でずらし、医師が到着するまでの時間に問診、身体計測などを行って時間短縮できるように対応している。

【委員】一元化によって専門スタッフが増えて健診の質が維持向上すると言われるが、ブロック開催の現状は支援が不足している部分があるということだと思う。これを踏まえて、一元化のメリットを伺いたい。

【事務局】現状が良くないということではなく、今のブロック化もきちんとしていただいているが、一元化で専門職の数が増え、多様な視点から観察・気づきが増えることで、より深く寄り添った対応と子どもに関する窓口が揃っているので、健診当日にその後のフォローが可能となる。今後、スタッフの確保が難しくなっていく中で、次年度から駅南庁舎へ集約することが望ましいと考えている。

【委員】佐治町や青谷町など遠隔地で公共交通機関がない地域で、車を持っていない方への影響が懸念されるが、こういった意見を取られているか聞きたい。

【事務局】伴走支援ということで、母子手帳交付時から関わりをもって、地区担当の保健師や職員が状況を確認している。交通面で支障があるというようなことが事前に分かっているので、個別の声かけや受診者の意向に沿った形でどのような支援や実施ができるか検討し、対応していきたいと考えている。

【委員】令和9年4月からの実施に向けて周知期間をどのくらい見ているのか。

【事務局】各総合支所の未来会議で報告した後に意見等をまとめる。ホームページやチラシ等の媒体を使って、半年間くらいの周知期間を考えている。また、母子手帳交付時にも案内する。

【委員】特集記事を組むなど効果的な周知を考えていただきたい。

【事務局】支所だよりでの広報を検討する。

【委員】健診日が増えることは良いこと。公式 LINE を作ってもらって、登録すれば対象健診日のお知らせ通知が届くようにできたらいいと思う。

【事務局】健診日の日程については子育てアプリでお知らせしている。対象日とその月の実施日などがわかるよう形でお知らせしていきたいと思っている。

(2) 令和8年度 総合支所等の体制について

説明者：能勢地域振興課長補佐

質疑なし。

(3) 令和7年度 青谷地域に係る当初予算について

説明者：田中副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷町分室長）、高野産業建設課長

総合支所整備事業費は、解体工事と非常階段の設置工事後に駐車場整備を行い12月頃に完了する予定。国土調査事業費は、早牛が対象となっている。青谷町トレーニングセンターの屋根改修工事は6月くらいに発注をかけて、今年度1月頃までの間実施。地域おこし協力隊事業費は、今年度募集をかけたいと思っている。

漁港施設機能保全事業費は、夏泊漁港の機能を維持するための計画策定。港整備推進事業費は、夏泊と長和瀬の照明施設の修繕。治水対策事業費は、青谷地区公民館の横に新しくポンプを設置する計画の令和8年度の工事費。ポンプから日置川に排水する管を設置する工事と既存排水ポンプの維持管理費。

【委員】支所の駐車場の白線、特に障がい者が止める車いすマークが見えにくくなっている。今後整備してほしい。

【事務局】支所改修工事で、駐車場を新設し、障がい者用も構築する。見えにくい部分があれば支所の予算で対応したいと考えている。

【委員】36番のポンプの工事について、これから農繁期に入り既存のポンプを操作しようと思っているが、今までと変わらずに操作できる状態で維持管理の工

事をされるのか。

【事務局】既存ポンプは今までどおりで、これには手をつけない。今後、新設ポンプとの兼ね合いや新設ポンプの管理も合わせて検討していく。

【委員】障がい者の駐車場から支所まで雨に濡れずに行けるように屋根があればいいと思う。1台でも入口の近くに専用のスペースを屋根がある場所に設けるか、現状の駐車場から屋根を設置できたらと思う。

【事務局】障がい者マークのついている場所は、大きな屋根がついているところと新しい玄関入口付近の2か所ある。こちらを使っていただければと考えている。

【委員】56番のかみじち公園の利活用について、3月頃にアダプトプログラムについて話し合いがあり、出席してワークショップをやった。かみじち公園ができる計画の段階から似たようなことを何回もやってきているが、この先どうなっていくのか知りたい。

【事務局】青谷地域活性化推進事業のことになるが、昨日、今年度の会議が開催され、予算が承認された。主な内容は、県、かみじち活動推進クラブ、あおいちの事業団体が一緒になって実施する「かみじちフェスタ」、町内を周遊して食事や買い物を楽しんでもらう「かみじちスタンプラリー」を計画して賑わいを創っていきたいと思っている。アダプトプログラムは、6月頃から具体的に動こうかなという話になっている。参加者を募集していく、いきなり大きなことをするのではなく、少しずつやっていこうと話をしている。あと、おもてなしプロジェクトのメニュー作成や、ここ数年では、青谷グルメマップの作製、グルメサイトの公開、お菓子に「かみじろう」の焼印を付けて、かみじち遺跡を表記した。昨年度は、電気ごてを追加購入、グルメサイトの内容更新を行った。今年度についても、ホームページの更新など中身の充実を図っていきたいと昨日検討した。

<協議事項>

(1) 令和8年度 地域振興未来会議開催スケジュールについて

説明者：能勢地域課長補佐

概ね隔月、年5回の開催。

5～7月は取組評価、委員提案審議。7月に委員提案を内容説明するが、6月に事前照会をかける予定。9～11月に予算に向けた施策の検討、未来プランの見直しや課題精査など。結果を2月に報告・反映するスケジュール。

【委員】スケジュールは良いが、掘り下げるための少人数のワークショップなどがあってもよいのではないかとこのことを提案させていただく。

【事務局】例えば、未来会議後の30分から1時間くらい持つなど必要に応じて対応していきたいと思っている。

【委員】全体の会議とワーキング的な部分と分けてやっていくということで承知した。

(2) 青谷地域未来プランおよび実施計画の進捗状況について

説明者：田中副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局青谷町分室長）、高野産業建設課長

資料に沿って説明

【委員】共助交通の進捗状況について、町民への周知状況はどうなっているのか。

【事務局】共助交通については、各地区のまちづくり協議会の代表者を集めてワーキンググループを開いて検討を行っているが、共助交通への必要性については、地区ごとに温度差がある。積極的にアンケートを実施する地区がある一方で、必要性を感じていない地区もある。事務局としては、なるべく足並みを揃えて、地域の皆さんで考えていただく方向で進めていきたいと考えている。このためにも、共助交通の検討状況等の周知について、これまで以上に取り組んでいきたいと考えている。

(3) 地域おこし協力隊について

説明者：能勢地域振興課長補佐

募集要項案を作成し、概要を説明。

地域産業活性化と担い手確保を目指し、農水産物を活用した商品開発などを行う隊員1名を募集。

「NPO 法人 B.F.O じげ」を受け入れ団体とする団体委託型。任期は最長3年。令和8年6月1日から10月1日まで募集し、令和9年度から活動開始予定。

【委員】都市部から青谷町内への移住・定住要件について、総務省の推進要綱に準拠しているとのことだが、自治体の判断で運用の柔軟性を高められないか。

現状の要件では、県外等から直接青谷町へ移住する人しか対象にならず、例えば「一度鳥取市の市街地に居住した後に青谷町の魅力に気づき、改めて移住して活動したい」という意欲のある人材が除外されてしまう。要件のハードルが高くても来る人はいるが、ワンクッション置いた転入や地域との往来・交流の実績を持つ人材も対象に含めるなど、柔軟に運用できれば、いろんな人材の確保が可能となる気がする。今後、運用変更の可能性はないか。

【事務局】運用の変更は考えていないが、今後の課題として検討させていただく。

【委員】3大都市圏をはじめとする都市、地域等はどこまでを指すのか。

【事務局】基本的には、東京、大阪、名古屋を指すが、それ以外にも、広島など地方の大きな都市も可能と捉えていただければと思う。

【委員】大きな都市ではなく、他県から来る場合はどうか。

【事務局】他県という意味では、例えば島根県は大丈夫と思っている。

【委員】すでに一定の地名度や認知度がある地域であれば応募者もあるが、現在の青谷町の認知度で募集要項を出しても厳しいのではないか。

【事務局】募集にあたっては、地域活性化や地方での活動に関心のある人材が集まる民間の転職・マッチングサイト等、具体的には JOIN への情報掲載を予定している。

【委員】外から来て実際に少し住んでみて「非常に良いところだ」と感じてくれた人の方が定住につながる。募集要項をふわっとできないか。

【委員】今期の募集に関しては、総務省の推進要綱の中での変更は無理だと思うが、出てきた意見について柔軟に相談にのることは可能か。

【事務局】総務省の財源を使うので、総務省のスキームで実施することが前提となる。柔軟に対応できない部分があることはご理解いただきたい。

【委員】今までにも、何年か前の椎茸の方とか、地域おこし隊がおられたと思うが。

【事務局】今までに二人いた。椎茸の栽培と和紙の関係に携わったが、どちらも3年間続かなかった。今回については、3年間続いて、なおかつ定住につながればと考えている。

4. その他

・委員提案について

説明者：提案提出委員

【委員】昨年度から民生委員を務める中で、地域における「成人期以降のひきこもり」に強い課題感を持っている。私が担当する地区も把握しているだけでも、3名おり、地区の約2パーセントとなり、これを青谷町の人口に当てはめると、町全体には約100名の当事者がいると推測する。現在は、家族の支えで生活が成り立っているが、将来の自立や社会参加を考えたときに課題がある。就学中であればスクールソーシャルワーカーなどの支援体制があるが、大学卒業後以降は、本人や家族が自ら発信しない限り、情報を得ることが難しく支援に繋がらない。支援者が伴走しながら本人の将来を共に考え、社会参加や就労につなげる仕組みづくりを考えていきたいと思っている。一つの具体策として、地域の関係機関と連携し、相談窓口の情報を、案として付けさせていただいた回覧板などを通じて届けることを提案する。あわせて、障がい者のピアサポーターの活動事例なども紹介し、地域における障害やひきこもりへの理解を深めるきっかけも作りたい。

【事務局】この課題は、青谷地域だけではなく、全国共通の課題であり、それを踏まえた上で、「地域住民として少しでもできることはないか」という思いから

今回の提案をいただいたと受け止めている。議論の進め方はこれからの話になると思うが、現状について補足説明させていただく。1月下旬から2月上旬にかけて、各集落の区長さんのご協力のもと、全世帯に向けて福祉の相談窓口の案内をするチラシを配布した。これは、県・市の社協や地域包括支援センターなどが集まる「青谷町地域共生社会推進連絡会」で作成したもので、障がいや介護、そして今回の議題となっている「ひきこもり」も含めた様々な福祉課題に対し、「どこでもいいから相談しやすいところに相談してほしい」というメッセージを込めたもの。実際に配布した効果としては、体感として問い合わせや相談が若干増えた印象を持っている。数件であるが「チラシを見た」というひきこもりに関する相談もあるが、チラシの件を口にされずに相談される方もいるので、実数は把握できないが、ひきこもりに関する相談に一定の効果はあったと捉えている。これらを前提として、今後の議論では、2月にチラシを配ったばかりという点、ひきこもりだけに特化したチラシを回覧する必要性の有無という点についてしっかりと協議をしていただき、未来会議の総意ということになれば、回覧文書の発行を具体的に検討していく必要があると考えている。また、今回配布したチラシについても、1回配布したがそれで終わりではなく、何年かに1回などある程度繰り返し配布することも必要だと考えており、福祉課題についても全般なのか、あるいはひきこもり、障がい、介護など個別に特化した方がいいのかといったことも含めて、今後考えて進める必要があると考える。

提案説明の中で、（ひきこもりの数値が）2パーセントという数字は地区の世帯数に対しての割合となっているので、地区の人口として計算し直すと0.8パーセントになる。実際のところ100人いるかどうかはともかく、根拠とされた割合については訂正させていただく。

【委員】 民生委員としての経験から一言話させていただく。数年前に、民生委員に対してひきこもりの実態把握の調査があった。非常にセンシティブな問題なので公開していないが、結果として、ほとんどの民生委員が「不明」として提出せざるを得なかったという実情がある。それほど実態を掴むのが難しい問題である。そうした背景があるからこそ、先ほど紹介いただいたチラシは、

意義のあるものだと感じている。実態が見えにくい問題だからこそ、1回限りの配布で終わらせず、何度も繰り返し発信し、常に住民の皆さんの目に触れるようにしておくことが重要だ。どの年代であっても「孤立」しない街にしたいと強く願っている。